

医療的ケア等に関する用語について

【医療的ケアとは】

病気を治す治療行為としての医療とは区別され、日常生活に必要な呼吸や栄養補給をお手伝いするための医療的な生活援助行為のことです。

【主な医療的ケア】

用語	説明
気管切開（きかんせっかい）	喉（のど）の皮膚と気管に穴を開け、そこに気管カニューレという器具を入れて留め置きし、空気の通り道（気道）を確保して、呼吸をしやすくすること。
吸引（きゅういん）	陰圧がかかる吸引用のカテーテル（管）を鼻や口、気管切開部から気道に入れて、鼻水・唾液・痰を吸い出す。
吸入（きゅうにゅう）	息を吸うのを利用し、霧状にした薬剤や水分を気道に送り、痰を出しやすくする。専用の機械（吸入器：ネブライザー）を使う。
経鼻咽頭エアウェイ （けいびいんとうえあうえい） 経鼻エアウェイ（けいびえあうえい）	喉（のど）が狭くなって呼吸しづらい時などに、やわらかいチューブを鼻から喉まで入れて、空気の通り道を作る。睡眠時に使用することが多く、食事の際は抜いたりする。
酸素療法（さんそりょうほう）	体の中の酸素が足りない時に、酸素濃縮器や酸素ポンプを用いて、カテーテルやマスクを通して、口鼻や気管切開部から酸素を補う。
人工呼吸器管理 （じんこうこきゅうきかんり）	自分で呼吸をすることが難しいまたは自分の呼吸だけでは不十分な場合に、人工呼吸器という機械を用いて、人工的に息を吸ったり吐いたり（呼吸管理）をする。人工呼吸器は体の外にあり、回路を通じて空気や酸素を口鼻や気管切開部から肺の方に送る。
経管栄養（けいかんえいよう）	鼻や胃からチューブを通して、流動食や水分等を摂取することをいう。経鼻経管栄養や胃ろうなどがある。
経鼻経管栄養 （けいびけいかんえいよう）	口から食事がとれないまたは難しい場合に、鼻から胃や十二指腸にカテーテル（管）を入れ、カテーテルを通して胃や十二指腸に直接栄養を送る。
胃ろう（いろう）	おなかの皮膚と胃の壁の孔（あな）をあけ、カテーテルを通して、直接胃にペースト状にした食べ物等を摂取する。腸から摂取する腸ろう（ちょうろう）もある。

用語	説明
中心静脈栄養【TPN または IVH】 (ちゅうしんじょうみやくえいよう)	口からの栄養摂取が難しい場合や消化管機能が低下している場合に、心臓の近くにある太い静脈に水分・電解質・栄養を補給する高カロリー輸液の点滴を行う。
導尿 (どうにょう)	自力でおしっこが出せない時に、尿道口から膀胱までカテーテルを入れ、膀胱に溜まったおしっこを体の外に出す。
人工肛門【ストーマまたはストマ】 (じんこうこうもん)	病気や手術により、消化管が十分な機能を果たせなくなった時や腸を休ませる必要がある時に、腸の一部をお腹の外(皮膚側)に出して、肛門に代わる便の出口としたもの。ストーマがある人のことを「オストメイト」と呼ぶ。人工肛門の出口もストーマと呼ぶ。
透析 (とうせき)	血液をきれいにする治療法。透析には「血液透析」と「腹膜透析」の2種類がある。
インスリン自己注射	糖尿病により膵臓で作られる血糖値を下げるホルモン(インスリン)が少ない時に、ご本人またはご家族がインスリンを補うためにインスリン注射をすること。 小児の糖尿病は、主に自己免疫により体内のインスリンが不足・欠乏してしまう型が多い。

【医療的ケアが必要な方の生活や支援で用いられる医療・福祉等の用語】

《あ行》

用語	説明
ROM (あーる・おう・えむ)	Range Of Motion の略で、関節が動く範囲（関節可動域：かんせつかどういき）のこと。
ICF (あい・しー・えふ)	国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health）の略語で、WHO（世界保健機関）が採択した分類法。ICF は、「生活機能」（心身機能・構造、活動、参加）の分類と、それに影響する「背景因子」（環境因子、個人因子）の分類で構成され、これに「健康状態」（病気、けが等）を加えたものが生活機能モデルとなる。
IVH (あい・ぶい・えいち)	中心静脈栄養（Intravenous hyper-alimentation）のこと。
アセスメント	評価や査定のこと。支援対象の方の情報を主観的・客観的にとらえ、問題点や強み、より良くするための視点を探り、その人に必要なことを考えること。
アドボカシー	権利擁護のこと。自己の権利を表明することが難しい方の生命や権利、利益を擁護して代弁すること。
アンビューバッグ	他動的な人工呼吸に用いるバッグ。マスク部分で鼻と口を覆い、バッグを押して肺に空気を送る。
医師 (いし)	患者さんの診察や治療、保健指導や公衆衛生の普及を行う。医者（いしゃ）ドクター（doctor）ともいう。
移乗動作 (いじょうどうさ)	ベッドから車いす、車いすから便器などに移動する動作のこと。「トランスファー」や「トランス」ともいう。
イブニングケア	夕方以降に実施する安眠を促すためのケア。ベッドを整えたり、排泄や洗面、口腔ケアなどを行うこと。
医療ソーシャルワーカー (いりょうそーしゃるわーかー)	医療機関などで、患者さんやご家族の相談支援やサービス調整等を行い、サポートする人のこと。MSW（えむ・えす・だぶりゅー）ともいう。
医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律 (いりょうてきけあじおよびそのかそくにたいするしえんにかんするほうりつ)	令和3年6月18日に交付され、9月18日に施行された医療的ケア児とその家族支援に関する法律。

用語	説明
医療的ケア児等医療状況共有システム 【MEIS】 いりょうてきけあじとういりょうじょうほうきょうゆうしすてむ【めいす】	厚生労働省が運用している医療的ケアが必要なお子さん等の医療情報が共有できるシステム。 (厚生労働省のホームページ参照)
医療的ケア児等コーディネーター (いりょうてきけあじとうこーでいねーたー)	医療的ケアが日常的に必要なお子さんの生活をご家族やご本人と共に考えサポートする人のこと。
医療的ケア判定スコア (いりょうてきけあはんていすこあ)	児童発達支援や放課後等デイサービス、短期入所を利用する際に、事業所によっては医療的ケア児の医療支援の濃度を計るために必要となるスコア。
イルリガートルスタンド	点滴スタンド。
インスリン自己注射	糖尿病により膵臓で作られる血糖値を下げるホルモン(インスリン)が少ない時に、ご本人またはご家族がインスリンを補うためにインスリン注射をすること。 小児の糖尿病は、主に自己免疫により体内のインスリンが不足・欠乏してしまう型が多い。
インテーク	初回面談のこと。
インフォーマルケア	家族・親族や友人・地域住民・NPO法人・ボランティアなどによる非公式的な支援のこと。インフォーマルサービスともいう。
インフォームド・アセント	治療や検査を受けるお子さんに対し、その子の発達や理解度に合わせて丁寧にわかりやすく説明し、お子さん自身が理解し納得して治療に合意すること。
インフォームド・コンセント	患者さんやご家族が、治療などについて医療関係者から十分な説明を受けた上で納得し、自らの意思で同意や選択をすること。
HR (えいち・あーる)	Heart Rate の略で、心拍数のこと。
ADL (えー・でいー・える)	Activities of Daily Living の略で、日常生活動作のこと。
エコマップ	ご本人やご家族を取り巻く社会資源等について、相関関係を図式化したもの。
ST (えす・ていー)	言語聴覚士 (Speech Therapist) のこと。
SPO2 (えす・ぴー・おー・つー)	経皮的に測定した酸素飽和度 (Saturation of percutaneous oxygen) のこと。
エデマ	むくみ、浮腫のこと。
NICU (えぬ・あい・しー・ゆー)	Neonatal Intensive Care Unit の略で、新生児集中治療管理室のこと。集中的な治療や医療管理を行う。

用語	説明
エビデンス	証拠や根拠のこと。患者さんが安全で効果のある治療方法を選ぶ際の指針となる根拠のこと。
MSW（えむ・えす・だぶりゅー）	医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker）のこと。
嚥下（えんげ）	食べ物や水分を口から喉を通して胃に飲み込むこと。
嚥下性肺炎（えんげせいはいえん）	飲み込みがうまくできずに、飲み込んだものが肺の方に流れ込むことによって生じる肺炎。
炎症（えんしょう）	病原菌・火傷・ケガ・アレルギーなどによって、熱・痛み・腫れるなどの状態のこと。
ENT（えんと）	退院のこと。
エンパワーメント	個人や集団が持っている潜在能力やより内発的な力で、ご自身の生活などをコントロールし、自立する力を持つこと。
嘔気（おうき）	吐気（はきけ）のこと。
嘔吐（おうと）	吐き戻すこと。
OT（おう・ていー）	Occupational therapist の略で、作業療法士のこと。
オスメイト	人工肛門・人工膀胱が造設されている方のこと。
オンマヤリザーバー	頭部の皮下に設置する脳脊髄液のリザーバーのこと。

《か行》

用語	説明
介護（かいご）	病気や障がいなどで日常生活に困難がある方に対し、食事・排泄・入浴・着替え・更衣等の日常生活全般の支援を行うこと。
潰瘍（かいよう）	病気により、体の皮膚や粘膜の一部が深いところまでただれて傷ついた状態のこと。
喀痰（かくたん）	痰（たん）のこと。気道から吐き出される粘稠性のある液体。
家族歴（かぞくれき）	ご家族やご親族の病歴等のこと。
カテーテル	医療行為などに使う管のこと。経管栄養や点滴等に用いる。
カニューレ	気管や血管などに入れる太めのチューブ状の管のこと。呼吸を助けたり、体の中の液体を抜いたり、薬を入れたりするための管。

用語	説明
カフ	気管カニューレの先端付近にある風船や、血圧計の腕ベルト内にある風船のこと。気管カニューレの場合、カフを膨らませることで、気管とカニューレの隙間がなくなり、空気の漏れや誤嚥を予防する。
カフアシスト	呼吸する筋力が弱っている等で咳がうまく出せない方に使用する機械のこと。
寛解（かんかい）	病気の完治ではないが、病気の症状が良くなって、穏やかになっている状態。
看護師（かんごし）	医師の診療の補助を行う。ナース（nurse）ともいう。
関節可動域（かんせつかどういき）	関節が動く範囲のこと。
浣腸（かんちょう）	便を速やかに出すため、または栄養を補給するために、肛門から薬などを入れること。
カンファレンス	病院（医療機関）で、治療中や退院前にご本人やご家族、医療スタッフや福祉関係者などが集まって、話し合うこと。
既往歴（きおうれき）	これまでにかかった病気のこと。既往症ともいう。
気管切開（きかんせっかい）	略して気切（きせつ）ともいう。
気道（きどう）	呼吸に必要な空気の通り道のこと。鼻口・喉（のど）・気管・気管支などのこと。
狭窄（きょうさく）	狭くなること。
クベース	保育器のこと。フランス語でクベウス（couveuse）ともいう。
痙攣（けいれん）	自分の意志とは関係なく、体の一部の筋肉や全身の筋肉が縮んで硬くなったり、ガクガクとする状態のこと。
傾眠（けいみん）	意識障がいの一つで、ウトウトしている状態のこと。
下血（げけつ）	胃や腸内で出血した血が、便などと混じって肛門から出てくること。
言語聴覚士（げんごちょうかくし）	言葉によるコミュニケーションが難しい方や摂食や嚥下障がいの助言や援助を行う。ST（えす・ていー：Speech Therapist）ともいう。
拘縮（こうしゅく）	ケガや病気などで、関節を動かせなくなると筋や腱が硬くなり関節の動きが制限された状態のこと。

《さ行》

用語	説明
座位（ざい）	上半身を90度程度に起こして座っている姿勢のこと。
在宅酸素療法 （ざいたくさんそりょうほう）	在宅で行う酸素療法のこと。
再発（さいはつ）	完治した病気が再び起こること。
座位保持装置（ざいほじそうち）	座位保持のための装置。
作業療法（さぎょうりょうほう）	人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域に焦点を当てた治療、指導、援助のこと。
作業療法士（さぎょうりょうほうし）	作業療法を行う専門の人のこと。OT（おう・ていー：Occupational therapist）ともいう。
サクシオン	吸引のこと。
サマリー	患者さんの入院中の様子や病歴等を要約してまとめたもの。
GCU（じい・しー・ゆー）	NICU で状態が安定してきた赤ちゃんが引き続き治療を受ける場所。
ジェネリック医薬品	新薬よりも低価格で販売されている後発医薬品のこと。
自助具（じじょぐ）	身の回りの動作が自分でできよう、工夫や改良を加えた道具のこと。
社会福祉士（しゃかいふくしし）	福祉等の専門知識を持ち、生活に困っているあらゆる方々の相談に応じ、助言や指導、関係者との連絡調整などの援助を行う。
障がい者手帳 （しょうがいしゃてちょう）	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の3種類の手帳のことを一般的に障がい者手帳という。
小児慢性特定疾病 （しょうにまんせいとくていしっぺい）	主に小児が、り患している厚生労働大臣が定める疾病のこと。略して小慢（しょうまん）ともいう。
ショートステイ	短期入所のこと。略してショートともいう。
褥瘡（じょくそう）	寝たきりなどで体の一部が体重で圧迫され血流が悪くなり、皮膚が赤くなったり、ただれたりすること。床ずれ（とこずれ）ともいう。
相談支援専門員 （そうだんしえんせんもんいん）	障がいがある方やそのご家族の暮らしに関する相談に応じ、障がい福祉サービス等の利用調整や連絡調整等を行う。
ソーシャルワーカー	医療、教育、福祉などの分野で、相談支援を行う相談員のこと。

《た行》

用語	説明
体位変換（たいいへんかん）	自分で体の向きを変えることが難しい方に、介護者が手伝って体の向きを変えること。体位変換により、褥瘡予防、血行促進、拘縮予防、苦痛緩和などが図られる。
短期入所（たんきにゅうしょ）	短期間、夜間も含め施設で、入浴、排泄、食事等の介護等を行う障がい福祉サービスで、ショートステイともいう。
チアノーゼ	血液中の酸素不足により、皮膚や粘膜が紫色になること。爪や口唇周囲に表れやすい。
腸ろう（ちょうろう）	おなかの皮膚と小腸の壁に孔（あな）をあけ、直接腸から栄養を摂取する方法。
透析（とうせき）	血液をきれいにする治療法。透析には「血液透析」と「腹膜透析」の2種類がある。

《な行》

用語	説明
ネブライザー	吸入（きゅうにゅう）または吸入器のこと。

《は行》

用語	説明
バイタルサイン	人間が生きている状態を示す生命徴候のこと。（vital signs）。呼吸、体温、血圧、脈拍、意識などのこと。
バギー	病気や障がいなどで座る姿勢が安定しないお子さんが使うバギー型車いすのこと。
バリアフリー	障がいのある方や高齢の方等にとって、社会参加を困難にしている物理的・精神的な障壁を取り除くこと。
パルスオキシメーター	血液中の動脈血酸素飽和度と脈拍を経皮的に測定する機器のこと。
PICU（ピー・あい・しー・ゆー）	Pediatric Intensive Care Unit の略で、小児集中治療室のこと。
PT（ピー・ていー）	Physical Therapist の略で理学療法士（りがくりょうほうし）のこと。

用語	説明
ヘルプカード	ヘルプマークが描かれているカード。バッグ等に付け、障がいのある方などが緊急時や災害時、困った際に周囲の配慮や手助けをお願いしやすくするためのもの。
訪問看護（ほうもんかんご）	主治医の指示に基づいて看護師等がご自宅を訪問し、健康状態を確認し、生活支援や医療行為などを行うサービス。略して訪看（ほうかん）ともいう。
訪問診療（ほうもんしんりょう）	通院するのが難しい患者さんのかかりつけ医として、医師が定期的にご自宅を訪問し診療を行うこと。（急な病状変化等に対して医師が緊急に訪問して診療することについては、往診という）
保健師（ほけんし）	保健所や保健センターで、健康診断や病気、難病や感染症の相談など、アドバイスやサポートをします。

《ら行》

用語	説明
理学療法（りがくりょうほう）	病気や障がいがある方に、基本的動作の維持や回復・改善のために、体操や運動などの運動療法をおこなったり、電気、マッサージ、温熱などの物理療法を行うこと。
理学療法士（りがくりょうほうし）	理学療法を行う専門の人のこと。PT（ピー・ていー：Physical Therapist）ともいう。
療育（りょういく）	「療」は医療や治療を意味し、「育」は教育や保育を意味する。病気や障がいがあるお子さんの障がい特性等を理解して行われる専門的な育ちの支援のこと。
レスパイト	主に介護しているご家族の小休止や一休み、息抜きのこと。